

2 平成21年観光入込客数及び観光消費額調査結果の概要

(1) 全体概況

京都府内における平成21年1月から12月までの観光入込客数及び観光消費額について、市町村の調査結果を取りまとめました。

平成21年は、高速道路のETC割引・シルバーウィークの影響や屋外のイベントが好天に恵まれたこと、「京都・花灯路」の定着等により増加した市町村等が見られるものの、新型インフルエンザの影響や世界的な景気の低迷等、全体として減少傾向にあったことにより、府内観光入込客数は、前年に比べ約391万人(5.0%)減少の約7,408万人で、14年ぶりの減少となりました。

また、京都市や近隣府県等と連携した積極的な外国人誘客の取組を行ったものの新型インフルエンザの影響で、外国人宿泊客数も前年に比べ約16万人減少し、約80万人となりました。

観光入込客数の減少等に伴い、観光消費額についても前年に比べ約506億円(7.2%)減少の約6,557億円となりました。

(2) 地域別増減要因(推定)

<京都市域>(減少)

「京都・花灯路」等のオール京都での取組が好調に推移しているほか国のビット・ジャパン・キャンペーンと連携した外国人観光客の積極的な誘致に取組んでいるものの世界的な景気の低迷や新型インフルエンザの影響から、入込客数は前年比93.4%となった。

<乙訓・山城地域>(減少)

イベント開催時の好天や城陽市で行われている光のページェントの規模拡大等により一部増加している施設がみられるものの、施設の閉鎖やイベントの中止などにより、地域全体として減少。入込客数は前年比95.2%となった。

<南丹地域>(増加)

新型インフルエンザによる影響等により一部減少している施設があるものの、南丹市においては美山ネイチャー号の運行や高速道路のETC割引により近畿周辺からの日帰客が増加したことなどにより、地域全体として増加。入込客数は前年比103.4%となった。